

い	る	に	央		時	き	外	物	ず		回	水	い	す	た	吐	ガ	ら	横
期	の	な	に	一	か	く	観	自	そ	室	し	で	思	ら	が	き	ラ	れ	目
待	か	っ	に	人	も	開	だ	体	こ	内	始	薄	考	見	が	、	ス	た	で
を	も	た	布	で	片	け	け	が	こ	は	め	め	の	見	が	を	を	障	後
抱	わ	。こ	団	使	時	放	で	生	に	初	た	た	発	つ	を	思	子	ろ	の
いた	か	こ	を	う	も	た	は	き	存	め	よう	掘	試	か	い	描	の	窓	を
末	ら	こ	敷	に	離	れ	感	て	在	て	な	を	み	ら	く	。男	奥	を	見
の	ず	こ	、	は	れ	た	じ	い	し	こ	黒	は	は	ず	。自	、	廊	見	つ
行	、	こ	ま	持	入	口	な	る	て	の	に	し	分	、	分	下	め	め	る
動	夢	な	だ	余	に	一	か	様	。今	部	彩	た	が	何	が	を	。ピ	。ピ	ッ
だ	か	の	っ	す	纏	歩	っ	な	自	屋	ら	が	早	考	手	タ	タ	リ	と
っ	し	か	た	ほ	わり	足	た	気	分	に	れ	々	え	え	が	と	と	と	閉
た	れ	な	が	ど	つ	を	濃	が	が	入	た	に	て	た	か	軽	先	に	じ
が	い	か	、	何	い	踏	い	し	い	っ	部	切	い	の	く	に	あ	あ	る
所	い	こ	故	故	い	み	違	て	る	た	屋	り	た	か	息	あ	あ	あ	る
詮	い	こ	こ	こ	い	入	和	な	こ	全	上	上	か	か	を	あ	あ	あ	る
期	い	こ	こ	こ	い	れ	感	ら	の	体	げ	げ	か	か	な	あ	あ	あ	る
待	淡	い	勢	中	。こ	た	は	い	建	勢	。こ	。こ	か	か	な	あ	あ	あ	る

い	構		ま	持	越	端	子		湧	知	組	一	を	れ	ら	面		か	だ
の	成	そ	ま	ち	し	ま	へ	男	き	っ	だ	切	入	た	れ	に		ら	と
大	さ	こ	ま	手	に	ま	目	は	上	て	け	な	れ	空	、	は		表	男
き	れ	こ	ま	を	伝	ま	を	そ	が	い	が	く	よ	間	右	向		情	は
さ	て	こ	ま	探	え	ま	向	の	る	た	置	、	う	あ	側	か		を	自
な	て	の	ま	す	て	ま	け	の	を	の	か	、	な	る	に	い		窺	嘲
の	お	だ	ま	と	く	な	た	感	じ	か	？	壺	な	る	廊	の	う	。	気
だ	り	と	ま	自	。横	つ	。入	じ		？	と	飾	な	る	下	和			味
い	、	い	ま	然	。横	た	口			と	、	る	ら	出	室				に
う	一	う	ま	と	に	障	と			得	わ	の	せ	る	。				口
事	枚	事	ま	と	滑	子	は			体	た	だ	よ	た				角	
を	の	を	ま	い	る	が	違			の	し	ら	う	め				を	
知	障	知	ま	目	溝	外	い			知	が	が	の	障				あ	
っ	子	っ	ま	線	が見	の	部			れ	来	そ	障	子				げ	
た	が	た	ま	が	えて	光	屋			な	る	れ	子	が				、	
。全	三	。全	ま	下	てく	情	の			い	事	ら	張	男				暗	
てを	畳	てを	ま	に	くる	報	端			何	を	は	張	の				闇	
	分		ま	落	る	を	か			か	一	は	張	正				の	
	く		ま	ち	。障	紙	ら			が	一	は	張	正				輪	
	ら		ま	の	子の					が	一	は	張	正				郭	
			ま	の						が	一	は	張	正					

の	た	と	一	伸	外	廊		に	注	な	と	せ		た	う	そ	ら	が	左
先	り	思	面	び	へ	下	と	ズ	ぐ	い	視	、	恐	。	や	ん	し	が	右
に	で	え	だ	て	と	へ	り	シ	光	木	線	男	る		く	な	香	広	の
は	左	る	け	お	と	と	あ	っ	が	の	を	は	恐		抜	な	り	く	付
加	に	ほ	で	り	自	と	え	と	織	廊	走	左	る		け	事	を	感	き
え	折	ど	も	、	分	同	ず	圧	り	下	ら	そ	頭		ら	を	空	じ	あ
て	れ	に	四	自	じ	じ	の	し	成	は	せ	し	だ		れ	気	中	ら	た
階	曲	長	部	分	く	く	安	掛	す	、	て	て	け		る	に	に	る	り
段	がり	か	屋	と	ら	ら	全	か	光	外	廊	の	を		く	な	に	の	ま
が見	、	っ	上	同	い	い	を	る	景	観	下	そ	そ		ら	が	だ	で	滑
える	後	た	は	じ	の	の	確	不	は	同	の	し	の		い	ら	ろ	滑	ら
。	ろ	。	入	く	部	部	認	安	妙	様	天	男	控		の	自	う	ら	せ
	に	左	る	ら	屋	屋	し	感	な	古	井	は	え		幅	分	き	。	れ
	続	の	の	い	が	が	た	と	安	臭	を	目	間		だ	が	上	光	ば
	く	廊	では	の	こ	こ	男	抱	心	い	経	な	か		け	横	げ	が	余
	右	下	ない	の	の	の	は	か	感	印	由	間	ら		横	に	る	直	計
	の	は	いか	部	に	に	身	せ	と	象	し	か	滑		に	違	い	接	に
	廊	突	か	屋	真	真	体	た	腹	を	て	滑			い	ない	置	部	屋
	下	き	の	が	っ	っ	ご	。	の	放	右	ら			。	い	を	を	屋
		当	こ	こ	直	直	と		底	ち	へ	せ				照	を		

つ	今		存	界	更	掛	て	に	で		の	極	う	ぬ	な	ど	こ	が	
鼓	の	（	在	の	に	か	い	頭	気	記	後	力	に	恐	興	遠	か	右	「
動	時	こ	し	中	男	っ	な	か	休	憶	ゆ	音	し	怖	奮	く	側	ガ	
の	間	こ	て	で	の	て	い	ら	め	は	つ	を	て	感	は	で	の	側	タ
音	に	は	い	耳	判	い	現	布	ば	そ	く	出	出	が	一	は	廊	ン	
が	な	一	な	を	断	い	状	団	か	こ	り	さ	出	脳	気	な	下	ッ	
漏	っ	体	い	澄	を	い	か	を	り	こ	と	ぬ	け	内	に	か	の	」	
れ	て	ど	な	ま	混	不	逃	被	夢	こ	障	よ	巡	を	陰	え	先	と	
ぬ	い	こ	い	し	乱	布	げ	り	か	こ	子	う	っ	潜	を	た	を	い	
よ	る	だ	。	て	さ	団	よ	夢	現	こ	障	に	た	め	だ	の	眺	う	
う	。	！		み	せ	は	う	か	実	こ	子	。	。	、	け	か	め	め	
に	男	？		る	て	薄	と	現	か	こ	障	。	。	。	、	な	た	た	
注	は	と		が	い	く	し	実	も	こ	子	。	。	。	。	の	時	は	
意	徐	考		、	く	。	。	か	ハ	障	障	。	。	。	。	は	だ	は	
し	々	え		沈	。	。	。	も	ッ	子	子	。	。	。	。	。	っ	。	
、	に	て		黙	心	。	。	。	キ	障	障	。	。	。	。	。	。	。	
正	早	い		以	許	。	。	。	リ	閉	閉	。	。	。	。	。	。	。	
面	く	た		外	な	。	。	。	し	め	め	。	。	。	。	。	。	。	
の	脈	ら		何	い	。	。	。	よ	。	。	。	。	。	。	。	。	。	
入	打			も	世	。	。	。	う	簡	簡	。	。	。	。	。	。	。	

て	襖	ら	い	世	じ	た	自	膝	喉	ん	悪	事	か	は	う	が	に	の	口
い	の	れ	を	界	て	。初	分	を	を	だ	の	は	も	隣	ち	中	に	先	の
る	白	て	見	が	い	め	を	ピ	震	。	時	と	し	の	に	央	落	の	襖
。	が	い	分	広	た	て	鼓	シ	わ	。	間	と	れ	部	に	か	ち	先	か
そ	闇	る	け	が	。	こ	舞	ャ	せ		帯	も	な	屋	既	中	ち	は	ら
の	の	。	る	っ	。	の	す	つ	「		に	勇	い	と	に	央	る	隣	ゆ
灰	黒		事	て	。	部	る	と	ふ		準	気	。	。	少	前	の	部	っ
色	と		が	い	。	屋	よ	叩	う		備	の	。	。	し	は	部	屋	く
が	合		で	る	。	に	う	き	ー		が	い	。	。	だ	を	と	を	り
一	わ		き	が	。	入	に	、	と		整	る	。	。	開	仕	を	右	と
力	さ		、	、	。	っ	音	、	い		つ	こ	。	。	い	切	を	に	顔
所	り		立	同	。	た	を	「	吐		た	と	。	。	て	る	向	を	。
だ	灰		体	じ	。	時	立	よ	息		事	と	。	。	い	襖	け	。	視
け	色		的	黒	。	か	て	っ	を		男	す	。	。	た	が	た	。	線
縦	の		に	で	。	ら	て	と	音		は	し	。	。	は	あ	は	。	。
に	壁		世	濃	。	ず	立	頼	に		内	。	。	。	ず	り	ず	。	。
黒	にな		界	淡	。	っ	ち	り	し		心	。	。	。	の	。	。	。	。
く	っ		を	の	。	と	上	な	、		で	。	。	。	襖	。	。	。	。
塗	な		捉	違	。	感	が	い	、		恨	。	。	。	い	。	。	。	。
り	っ		え	の	。		っ	が	、			。	。	。	い	。	。	。	。

肩	現	そ	重	え	襖	「	は	捉	一	闇	く	な	中	こ	の	自	に	い	つ
で	れ	れ	心	る	が	ガ	一	え	分	の	息	く	で	と	中	分	濃	い	ぶ
す	な	か	を	。男	そ	タ	歩	て	ほ	住	を	な	影	なく	に	の	淡	。唯	さ
る	い	ら	移	は瞬	う	ン	前	い	ど	人	吐	っ	が	前	に	に	が	一	れ
乱	。頭	ま	動	は時	音	ツ	に	な	待	へ	き	た	動	進	影	胸	分	か	、
れた	を	た	させ	に瞬	を	」	足	い	っ	と	、	。男	き	む	が	の	る	る	男
呼	巡	一	走	に瞬	立		を	。掌	て	投	、	はも	姿	で	でき	事	は	男	の
吸	る	分	れる	に瞬	、		踏	の汗	み	げ	誰	う一	勢	て	いる	その	黒	目	に
を	恐	ほ	体	に瞬	続		み	太	出	掛	か	度	を	。男	。男	黒	色	は	は
整	ろ	ど	勢	な	け		出	腿	す	け	い	さ	と	は	。男	色	の	先	の
え、	しい	待	な	っ	て		す	に	。	つ	る	つ	っ	そ	は	世	界	の	世
深	い	た	っ	た	疊			擦		け	か	き	た	こ	ら	界	中	の	界
呼	想	が	。し	し	を			り		、	！	よ	。す	。男	下	中	に	は	映
吸	像	静	か	か	擦			つ		男	？」	り	ると	は	だ	に	更	は	ら
をし	を	寂	し	し	る			け		を	と	強	閻	そ	け	に	な	な	な
なが	宥	以	し	し	音			、		を	く	く	の	こ	所	な	な	な	な
が	め	外	し	し	が			男		変	核	長	動	。閻	々	な	な	な	な
		何	し	し	聞			を		化	心		く	。閻	閻	な	な	な	な
		も	し	し	こ			を		を	を			。閻	閻	な	な	な	な

胸	男	「		感	く、	空	男	「	め	「	「	襖	る	「	い	「	た	「
を	は	や	「	覚	、	気	は	止	ん	質	越	越	こ	怒	「	怒	い	わ
抑	片	・	「	え	ヒ	を	過	め	な	問	し	こ	ら	「	「	「	「	た
え	方	・	「	、	ユ	い	呼	ん	さ	に	に	こ	？	「	「	「	「	た
な	の	・	「	、	ー	く	吸	さ	い	答	男	は	「	「	「	「	「	た
が	襖	や	「	、	ヒ	ら	の	い	ご	え	は	そ	「	「	「	「	「	た
ら	を	め	「	、	ユ	吸	よ	め	め	て	う	う	「	「	「	「	「	た
隣	を	て	「	、	ー	つ	う	ん	ん	く	な	問	「	「	「	「	「	た
の	力	く	「	、	と	つ	な	な	な	れ	状	い	「	「	「	「	「	た
部	任	れ	「	、	首	も	症	さ	さ	い	に	か	「	「	「	「	「	た
屋	せ	。止	「	、	を	も	状	が	い	ご	襲	け	「	「	「	「	「	た
へ	に	める	「	、	絞	苦	に	和	ご	め	わ	る	「	「	「	「	「	た
と	横	んだ	「	、	め	し	襲	ら	め	ん	れ	。	「	「	「	「	「	た
入	に	だ!	「	、	ら	さ	始	ぐ	ん	な	始	。	「	「	「	「	「	た
っ	滑	！	「	、	ら	が	め	事	さ	い	め	。	「	「	「	「	「	た
て	らせ	」	「	、	せ	が	て	が	い	っ	て	。	「	「	「	「	「	た
い	、	」	「	、	、	な	い	な	っ	！	い	。	「	「	「	「	「	た
く	左	」	「	、	様	な	っ	い	！	「	手	。	「	「	「	「	「	た
。	で	」	「	、	な	な	っ	っ	っ	「	で	。	「	「	「	「	「	た
バ		」	「	、	な	な	っ	っ	っ	「	い	。	「	「	「	「	「	た

と窓を叩く強い風の音が、一晩中静寂を消し	「ゴオウツ」	つた。	黒一色に染めていき、全身から力が抜けてい	けた視界は少しずつモザイクのように全てを	に立っている。恐怖で息が詰まり、涙でぼや	た場所には、こけしのような黒い影が代わり	いた。暗闇の中今まで知らない男が立ってい	女は顔を覆う掌の間からその光景を眺めて		そのまま動かなくなつた。	部屋の中央付近で前のめりに顔から倒れ込み	と同時に男の意識は現実から遠のいていった	と叫ぶ女に懇願した直後、頭に激痛を感じる	「もういいっ！やめろー！」	ていく。	ける掠れた女性の声で跡形もなく消し去られ	そうな息遣いと、狂つたように何かを叫び続	り、数分前の静寂はヒューヒューという苦し	タバタと何者かが床を這っていく音が響き渡
----------------------	--------	-----	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------------	--	--------------	----------------------	----------------------	----------------------	---------------	------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

